

浜風 通信

第35号

発行：神奈川県藤沢土木事務所
 なぎさ港湾課
 住所：茅ヶ崎市汐見台1-7
 電話：0467-58-1473

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/ex5/kaigan/chigasaki.html>

第22回茅ヶ崎海岸侵食対策協議会

日時：令和7年3月15日 16:00~18:30
 場所：藤沢土木事務所汐見台庁舎 1階会議室
 出席者：委員17名、事務局14名、傍聴者12名

[主な議題]

- (1) 茅ヶ崎海岸の養浜事業の評価
- (2) 中海岸地区と菱沼海岸地区の海浜状況調査
- (3) サンドエンジン養浜の効果検討
- (4) 養浜環境影響調査の報告
- (5) 養浜工事について

○ はじめに

神奈川県では、令和7年3月15日に第22回茅ヶ崎海岸侵食対策協議会を開催しました。茅ヶ崎海岸（柳島地区から菱沼海岸地区）における養浜実績、養浜区画での環境調査の結果、菱沼海岸地区における定点での連続養浜（サンドエンジン養浜）の効果、今後の事業の進め方等を説明し、報告内容について、意見交換を行いました。

(1) 茅ヶ崎海岸の養浜事業の評価

(1) -1 養浜実績

2024年は、ダムのしゅんせつ土砂、堆積砂および飛砂を使用して養浜を行った（図1、図2）

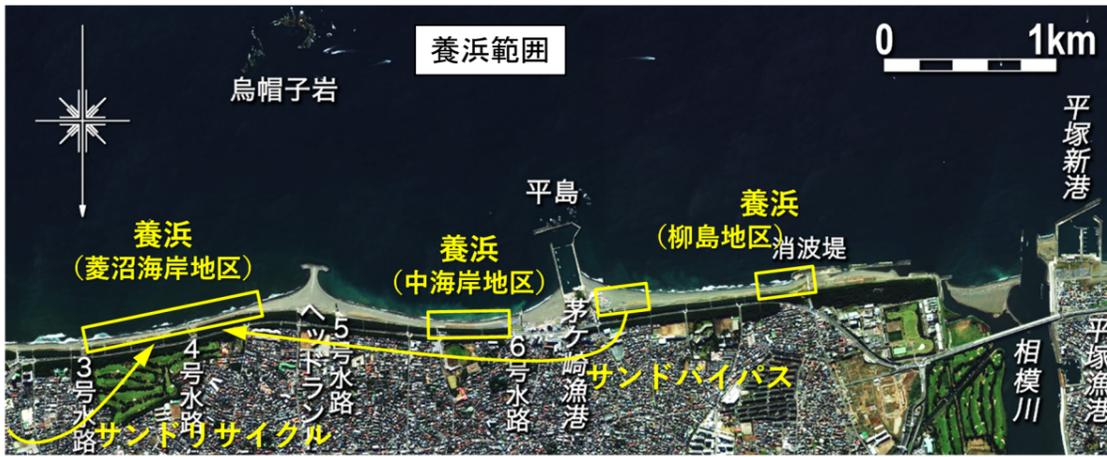


図1 養浜範囲

○ 2006年1月から2024年3月までの総養浜量

柳島地区	11.0万m ³
中海岸地区	52.3万m ³
菱沼海岸地区	15.9万m ³

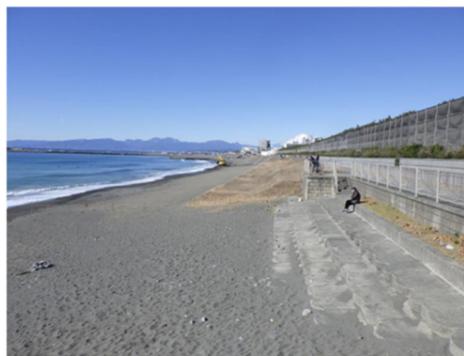
○ 2024年の養浜量（実施月）

柳島地区 5,000m³
 (2024年6月)



養浜箇所の状況（2024年6月10日）

中海岸地区 5,570m³
 (2025年1月から3月)



養浜箇所の状況（2025年2月19日）

菱沼海岸地区 22,000m³
 (2024年11月から2025年3月)



養浜箇所の状況（2025年2月21日）

図2 養浜量と養浜箇所の状況

(1) -2 養浜後の地形変化(湘南海岸全域の汀線変化)

【茅ヶ崎中海岸地区】
 2005年以降、汀線が前進した。

【茅ヶ崎菱沼海岸地区（ヘッドランド東側）】
 2005年以降、汀線が後退している。
 ただし、ここ数年では養浜の効果により全体として汀線は前進（図3）

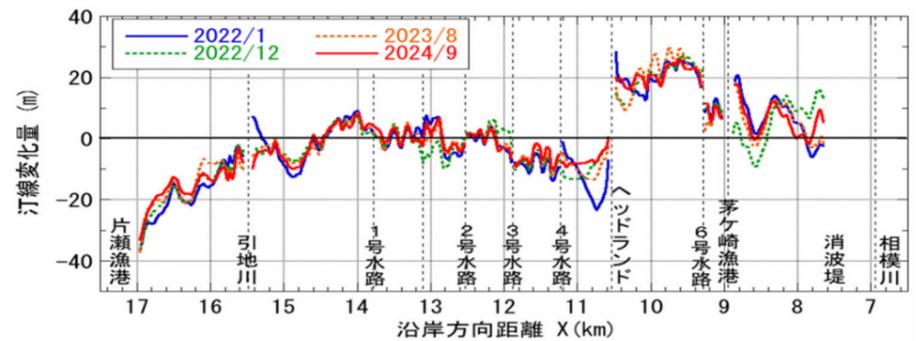


図3 空中写真から読み取った湘南海岸全域の汀線変化量（2005年基準）

(1) -3 計画浜幅の達成状況と防護機能評価

【中海岸地区】
 砂浜は計画浜幅まで達成し、海岸中央部の浜幅が2024年10月には51.8mまで回復し、計画浜幅（B'=50m）を満足した（図4）

【菱沼海岸地区】
 2022~2024年に養浜63,000m³を行ったが、2024年9月時点で、沿岸方向470mの区間のみ浜幅を満足していない（図5、図6）。

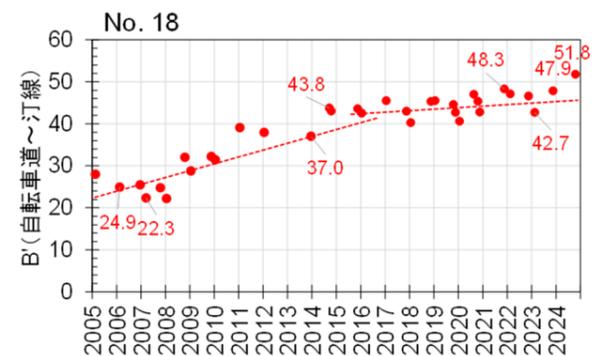


図4 浜幅検証断面（No.18）の経年変化（中海岸地区）

* 浜幅とは：自転車道法肩から汀線までの距離



図5 空中写真から読み取った浜幅（自転車道法肩～汀線）の沿岸方向分布（菱沼海岸地区）

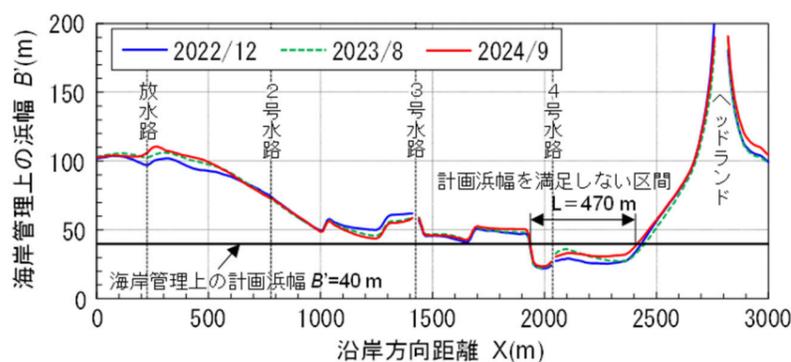


図6 空中写真から読み取った浜幅 B'（自転車道法肩～汀線）の沿岸方向分布（菱沼海岸地区）

(2) 茅ヶ崎海岸の中海岸地区と菱沼海岸地区の海浜状況調査

養浜後の海浜状況を調べるために2025年2月19日には海岸の現地調査を行った。

中海岸地区では、養浜により砂浜の復元が進んできている。また、菱沼海岸地区では、定点での連続養浜（サンドエンジン養浜）が2024年2月から開始され、従来養浜とは異なり、周辺に浜崖が全く形成されず、海岸景観や利用の障害にならずに砂が供給されており、引き続きこの形式での養浜が2025年2月も実施されている（図7）。



図7 菱沼海岸地区の養浜状況（クローラダンプによる砂輸送）

(3) 菱沼海岸地区におけるサンドエンジン養浜の効果検討

菱沼海岸地区の定点での連続養浜（サンドエンジン養浜）（図8）では、相模川河口砂州の砂を養浜材料としての使用は非常に有効であり、さらに養浜量を増やすことでより早期の目標浜幅の達成を見込むことができることがわかった。

ただし現況では、相模川の流出土砂量が減少しているため、土砂の調達は今後も可能かどうかについては十分な注意を払う必要がある。



図8 菱沼海岸地区の空中写真（2024年9月）

(4) 茅ヶ崎養浜環境影響調査

養浜による底質・生態系などの変化を把握するため水質、底質、底生生物調査について年次調査を行っている（図9）。

<実施期間>

1回目：令和6年10月11日、2回目：令和6年12月9日

<調査概要>

- 【水質】透明度、SS：R5よりも良い傾向
- 【底質】粒度組成：R5調査と同様の傾向
- COD、全硫化物：すべて水産用水基準以下
- 【底生生物】総個体数、種数：R5調査よりやや少ない
- 【合成指標による底質評価】正常な底質と判断

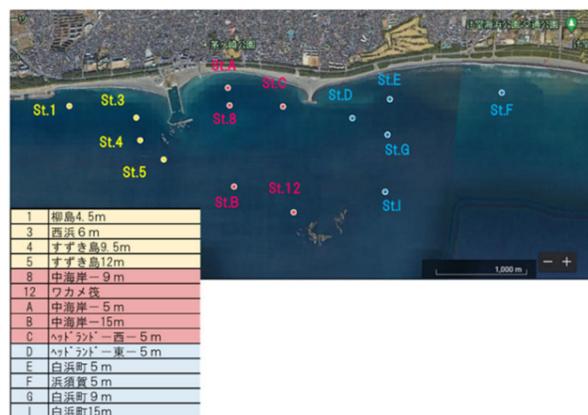


図9 茅ヶ崎養浜環境影響調査地点図

(5) 令和7年度の養浜工事について

柳島地区、中海岸地区、菱沼海岸地区それぞれで養浜を実施予定。

	養浜量	実施時期	養浜材
柳島地区	5,000m ³	令和7年5月～6月	令和6年度にダムから柳島ストックヤードに搬入した土砂
中海岸地区	10,000m ³	令和7年11月～令和8年3月	令和6年度にダムから柳島ストックヤードに搬入した土砂
菱沼海岸地区	26,000m ³	令和7年11月～令和8年3月	茅ヶ崎漁港西側海岸、辻堂海岸に堆積した飛砂、相模川河口砂州

主な委員意見（●意見、⇒意見に対する回答など）

- 竹すくしの維持の件ですけれども、いつまた風が吹いて砂がたまるかわからないので、自転車道の飛砂をすぐにどけずに、結構ためっ放しになっていることが多くて、それが竹すくしを早く傷める要因になっているのではと思っています。
⇒ 自転車道の堆砂除去について、今年度から、藤沢市域、茅ヶ崎市域に分けて事業を発注し、これまでは自転車道への飛砂を竹すくしの外側に除去するまでであったが、さらに除去した砂を汀線際に押し出す工事もあわせて行っている。管理者間で連携してなるべく自転車道に飛砂がたまらないような工夫をしている。来年度も連携しながら取り組んでいく。
- 昔は駐車場になっていた浜降祭の神輿が集まる場所が元の地盤高で、それがずっと西側に続いている状況だったが、現状そこから西側は浜崖になってしまっています。夏と秋の西風で砂が復旧していくならいいが、随時モニタリングをしているということですが、ここ2～3年の間にかなり見た目でわかるような深さになってきているので心配している。
⇒ ここ2年間、特に去年は西風が吹いておらず、ほぼ掘った状態が元に戻らなかったが、過剰に掘らないように、風の吹き回しなど十分注意しながら、人為的侵食となる前に茅ヶ崎漁港西浜からの砂の再利用を止める。
⇒ 養浜するだけでなく、自転車道が飛砂で通行止めに近い状態になることを避けている。